

## 1 事業名

平成27年度 文部科学省委託事業 日独学生青年リーダー交流事業（地方受け入れプログラム）

## 2 趣旨（事業の目的）

日本とドイツの青少年団体等でリーダーやボランティアとして活動する学生・青年が、文化体験、意見交換、機関や団体で体験活動等を行うことにより、青年リーダーとしての資質を高めるとともに、日独の相互理解と交流の発展を図ることを目的とする。

## 3 期日

平成27年9月2日（水）～9月7日（月）

## 4 参加者

- ・ 社会人を含む18歳～26歳のドイツ人学生青年リーダー16名
- ・ ドイツ団長1名
- ・ 岩手山青少年交流の家法人ボランティア18名

## 5 連携・協力

滝沢市 滝沢市立柳沢小中学校 岩手県立大学さんさ踊り実行委員会  
公益財団法人岩手県国際交流協会 ホストファミリー16家族

## 6 内容

### （1）日程

	6:30	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
9月2日（水）	ドイツ団 パス移動							岩手山青少年交流の家着	オリエンテーション 歓迎会	夕食	入浴	ドイツ団ミーティング	宿泊 (岩手山)				
9月3日（木）	起床	朝のつどい	朝食	日独ボランティア 意見交換会	共同体験活動 野外炊事			柳沢小学校訪問にむけての 企画作り①		夕食	企画づくり②	入浴	宿泊 (岩手山)				
9月4日（金）	起床	朝のつどい	朝食	移動・準備	柳沢小学校訪問 授業参観・交流会・給食体験			移動	ドイツ団ミーティング	ホストファミ リー 対面式	ホームステイプログラム						
9月5日（土）	ホームステイプログラム																
9月6日（日）	ホームステイプログラム							ホストファミリー 交流会	ドイツ団ミーティング 学習発表会準備	夕食	入浴	ドイツ団ミーティング 学習発表会準備	宿泊 (岩手山)				
9月7日（月）	起床	朝のつどい	朝食	学習発表会			昼食	お別れ会	岩手山青少年交流の家 出発								

### （2）指導者

国立岩手山青少年交流の家	主任企画指導専門職	桑原 玲子
国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	高橋 省一
国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	中村 聡
国立岩手山青少年交流の家	事業推進係	中野 健二
国立岩手山青少年交流の家	事業推進係	佐々木 翔也

### （3）企画のポイント

本事業では、岩手山青少年交流の家の法人ボランティアが実際に行っている活動の体験や、意見交換などをおしてドイツ人参加者が「子供の体験活動の機会を提供するための支援」理解を深められるようにプログラムを企画した。また、岩手山法人ボランティアがドイツ団参加者ととともに活動することで、日独の青年が互いに違った立場で、文化理解や交流の発展について考えを深める機会とすることをねらった。さらに、「ホームステイ」や「盛岡さんさ踊り」の体験等をおして、一層の日本の文化理解と交流を図った。

#### (4) 広報のポイント

ホームステイプログラムに向けて、ホストファミリーの募集を行った。公益財団法人岩手県国際交流協会に協力をいただきながらホームページにて広報をした。また、滝沢市近郊の高等学校にチラシを配布した。国際交流やホームステイに興味を持ち、初めてホームステイを受け入れる家族が8家族あった。また、事業全体の広報として、岩手県内の各テレビ局やラジオ局、新聞社に取材を依頼した。事業期間中、2社の新聞社による取材があった。

#### (5) 運営のポイント

「交流」をポイントの中心に据えて運営した。日独のボランティア同士と一緒に意見交換や体験活動ができるように日程を考えた。また、より良い意見交換や交流ができるようにグループを3つに分けて活動するようにした。さらに、滝沢市立柳沢小学校へ実際に訪問し、交流事業を行った。ここでは、ボランティア同士の交流同様に3グループに分かれて、子供たちと交流する授業内容を企画し、小学校の3つの教室でその企画内容で授業を行った。ボランティア同士の交流や子供たちとの交流をとおして、「子供の体験活動の機会を提供するための支援」について理解を深められるようにした。

### 7 成果とその普及

日独のボランティア同士の交流や共同体験活動によって、お互いのボランティア活動の様子について理解を深めることができた。ドイツ人参加者からは、「実践（野外炊事）したことで、法人ボランティアが活動していることがよくわかった。」「日本のボランティア活動について興味深い意見交換ができた。一緒に野外炊事をしたことで、子供との活動を示すよき例を知ることができた。」といった感想が聞かれた。また、小学校へ実際に訪問して交流をしたことも、日本の学校の様子について理解する機会となった。「日本の学校生活を実際に体験できたのは良かった。子供と遊ぶのはとても楽しかったし、文化理解にも役に立った。」「学校制度を実際に見ることができたのは興味深かった。」といったドイツ人参加者からの感想が寄せられた。

ホームステイプログラムもおおむね好評価であった。「日本の文化を理解できるような、重要な交流ができた。」という意見もあった。言語の壁により、意思疎通が難しかったと感じる家族も多かったが、ホームステイプログラムはドイツ団参加者・ホストファミリー双方とも100%の満足度であり、ドイツ人参加者のために頑張るホストファミリーの気持ちは十分ドイツ人側に伝わっていた。ドイツ人参加者は皆、「楽しかった。」「最高の家族に出会えた。」「ありがとう。」という感想を述べていた。

ボランティア同士の共同体験活動（野外炊事）で報道新聞1社、柳沢小学校訪問で新聞報道1社の取材があった。企画の概要・報告書等は、ホームページへの掲載や館内への写真掲示による紹介をとおして、幅広く普及活動を行うこととする。

### 8 今後の課題

5泊6日の限られた期間の中で交流をとおして文化理解や交流発展を図るには、プログラムの精選と焦点化が必要である。今回は、「交流」をポイントにしながらい体験活動を重視した内容で運営した。しかし、日独お互いのボランティアについて理解し合えるための意見交換会の時間は短かった。「深い話し合いができなかった。」「理解し合えるには時間が短すぎた。」といった声が日独双方のボランティアから聞かれた。自己紹介シートを活用し、事業前にそれぞれのボランティア活動などの情報を把握しておき、意見交換会では、テーマを絞り深くディスカッションできるように内容や時間について工夫する必要がある。

ホームステイでは、「ドイツの方の希望をもっと詳しく知っていれば計画が立てられた。」というホストファミリーからの声も聞かれた。ボランティア同士の交流同様、事前の情報提供についても工夫したい。



ボランティアの意見交換



柳沢小学校での交流



ホストファミリー歓送会